

第 29 期北海道産業教育審議会 第 4 回審議会

1 日 時

令和 7 年 11 月 12 日（水）15:00～16:20

2 場 所

TKP 札幌ホワイトビルカンファレンスセンター カンファレンスルーム 4 A
（札幌市中央区北 4 条西 7－1－5）

3 出 席 者

(1) 委員 12 名

岡部会長、明田川副会長（専門委員長）、上坂委員、近江委員、大槻委員、小塚委員、
高橋委員、永井委員、廣瀬委員、百瀬委員、諸橋委員、和田委員

(2) 教育庁 4 名

石田課長補佐、藤田キャリア教育指導係長、林主査、石田指導主事

4 会議次第

(1) 開会

(2) 北海道教育委員会挨拶

(3) 会長挨拶

(4) 議事

ア 建議（案）について

イ その他

(5) 会長挨拶

(6) 北海道教育委員会挨拶

(7) 閉会

5 議 事 録

(1) 開会

【事務局（藤田キャリア教育指導係長）】

ただ今から、第 29 期北海道産業教育審議会第 4 回審議会を開会いたします。私は本日の進行を務めます高校教育課の藤田です。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、お手元にございます「第 4 回審議会要項」の 2 ページをお開きください。名簿に掲載しておりますとおり、本日は委員 14 名のところ、12 名の皆様の御出席をいただいておりますので、北海道産業教育審議会規則第 3 条の 2 の規定により、会議が成立しておりますことを御報告いたします。

それでは開会に当たりまして、北海道教育庁学校教育局高校教育課課長補佐、石田暁から御挨拶申し上げます。

(2) 北海道教育委員会挨拶

【事務局（石田課長補佐）】

本来でありましたら、指導担当局長の山城から御挨拶すべきところですが、高校教育課長の高田とともに、本日開催中の道議会に出席しておりますので、私から代わりに開会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、日頃から本道産業教育の推進に御支援と御協力をいただいております。

りますことに心から感謝申し上げます。また、お忙しい中、本日御出席いただきましたことに、重ねて感謝申し上げます。

さて、本審議会におきましては、本道産業教育の課題を「専門高校の魅力の発信」、「職業学科の教員の確保」、「産業界との連携」の3つに整理した上で、それぞれの課題解決の方策を示すため、13年ぶりとなる大規模調査を実施し、結果を分析するなど、約2年間にわたって御審議いただきました。おかげをもちまして予定どおり会議を重ね、本日ここに最終審議を迎えることができました。本日は第29期の最後の審議会となりますことから、それぞれの立場から忌憚のない御意見を頂戴したいと考えております。簡単な挨拶にはなりますが、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(3) 会長挨拶

【事務局（藤田キャリア教育指導係長）】

続きまして、岡部会長から御挨拶をいただきます。

【岡部会長】

開会に当たりまして、御挨拶申し上げます。委員の皆様には御多用の中、本審議会にお集まりいただきましたこと、感謝申し上げます。

さて、先ほどお話もありましたとおり、本審議会では令和5年12月から「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」について審議を重ねてまいりました。この間、これまで審議会を3回、6名の委員による専門委員会を実に11回開催するなど、委員の皆様には熱心な議論をいただき、貴重な御意見を多数伺ってきたところでございます。

本日は建議案について審議し、今月25日に予定されております手交に向けて建議をまとめていきたいと考えております。最後の審議会となりますので、委員の皆様には、専門高校で学ぶ生徒が産業構造や社会の変化にも対応しながら、夢と希望をもって未来を切り拓いていくことができるよう、改めてそれぞれのお立場や知見から御意見をいただきたくお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

【事務局（藤田キャリア教育指導係長）】

ありがとうございました。それでは議事に入る前に、事務局から配付資料の確認をさせていただきます。お手元の配付資料一覧に記載のとおり、要項、今後の予定並びに建議の周知方法、建議案及び概要版案のほか、参考資料をお配りしております。資料の過不足等がございましたら、事務局にお声かけ願います。

それでは、ここからの進行につきましては、岡部会長をお願いいたします。

【岡部会長】

それでは、お手元の要項にあります次第に基づきまして、早速、議事に移りたいと思います。はじめに事務局から今後の予定並びに建議の周知方法について説明をお願いいたします。

【事務局（石田課長補佐）】

私の方から説明させていただきます。お配りした資料「今後の予定並びに建議の周知方法」を御覧ください。建議案につきましては、本日の第4回審議会終了後、岡部会長と事務局でお預かりしまして、本日いただいた御意見等を踏まえ、最終的な修正作業及び点検を行います。

そして先ほど会長の御挨拶にもありましたが、今月25日に、岡部会長と明田川副会長から北海道教育委員会教育長に、建議を手交していただくことになっております。その後、12月4日に開催される教育委員会におきまして、教育委員に建議の内容を報告させていただいた後、高校教育課のウ

ウェブページに、建議及び概要版を併せて掲載いたします。

また、道立高校や市町村教育委員会、関係大学、北海道中学校長会、経済団体など広く電子データを送付することとしております。

次に、資料の裏面を御覧ください。道教委では「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」という事業を行っておりまして、このプロジェクトの中で、専門高校の代表の校長先生を対象としたイベント「S7サミット」を開催いたします。このサミットを通じて、本建議の内容を各職業学科の代表の校長先生方に、詳細かつ具体的に周知する予定でございます。その後、広く道内の専門高校の管理職や先生方に、周知されることを期待して行う予定としております。

資料の表面に戻りますが、道教委で道立高校や経済団体などを対象に発行している通信「ONE-TEAM ニュース」というものがございます。こちらにも建議の概要や先ほど申し上げました「S7サミット」の内容を掲載し、企業関係者等にも広く建議の内容について周知を図っていきたいと考えております。説明は以上です。

【岡部会長】

ありがとうございます。事務局から今後の予定と建議の周知方法について説明がありましたが、御質問などありましたら御発言をお願いいたします。

それでは、審議に移りますが、審議事項1の建議案につきまして、専門委員会の明田川委員長から説明をお願いいたします。

【明田川副会長（専門委員長）】

建議案について御説明をさせていただきます。

はじめに、専門委員会は本来7回開催のところを11回開催いたしました。専門委員の皆様にはお忙しい中で出席いただき、御審議いただきましたことに感謝申し上げます。また、松岡副委員長には本当にこの間、議論に尽力をいただきまして感謝申し上げます。さらに、本来、岡部会長は出席する必要のない会議だったにも関わらず、調査の分析に御尽力くださり、ほとんどの専門委員会に御出席いただきました。感謝申し上げます。

まず、建議案の目次をお開きください。第3回審議会でお配りしたものから、全体の章立て、構成は変わっておりません。ここからは、全体的な説明というよりも、主に第3回審議会から変更になった点を中心に御説明いたします。まず、8ページからの第2章についてですが、白黒で印刷される方も多いと考え、白黒印刷でもグラフが区別できるように書き換えております。数字自体は前回と変わっておりません。

続きまして、59ページをお開きください。「第3章 今後の取組の在り方」についてです。第3回審議会でもいただきました御意見を踏まえて、内容を修正しております。内容が大きく変わった点はありませんが、段落を入れ替えたり、少し不自然だった箇所を自然な文言に言い換えるなどの微修正や微調整をしております。なお、事前に皆様に配付しておりましたので、内容についてお気付きの点や修正した方がよいのではと思われることがありましたら、後ほど是非、御意見をいただきたいと思います。

第3回審議会から変わった点としましては、67ページの「4 今後の実現に向けて」というところです。ここは前回、「今後の専門高校の方向性」という見出しで書いてありましたが、内容について、第3章で提案されていることを実際に実現していくための方策がまとめられているということから、「今後の実現に向けて」ということで修正しております。

もう1点追加された部分ですが、124ページをお開きください。「おわりに」としまして、建議全体のまとめを岡部会長に記載いただきました。

続きまして、皆様のお手元にありますカラー刷りのリーフレットを御覧ください。先ほど石田課長補佐から、手交された建議を広く周知していきたいという旨の説明をいただきましたが、各部会

の校長会や研究会、先ほど御説明のありました「S7サミット」等の機会を利用して、建議について広く周知していくために、分かりやすくまとめたものがこのリーフレットになります。建議自体は120ページを超える厚さですので、こちらを一枚にして分かりやすく見ていただこうと考えました。

この概要版は、建議とともに道教委のホームページに掲載し、自由に印刷していただけるようにする予定です。概要版の内容について簡単に御説明します。A3の見開きになっています。1ページは、調査を行う上で設定した本道産業教育における課題、そして、この調査が何を意図して、どのような点に着目しながら行ったかなど、調査の概要とポイントについてまとめております。

2ページと3ページは、第3章の内容をまとめたものになっています。第3章の提案部分は大きく3つのパート、「1 専門高校の魅力発信」、「2 専門高校の教員確保」、「3 産業界との連携」に分けて書いてありますので、概要版も第3章の構成に合わせて、1、2、3とポイントを絞って書いております。建議の第2章に載っているグラフを全部入れ込むことは分量的にできませんので、特にポイントとなるグラフを4つ抜き出して掲載しています。グラフのどこがポイントになるのかを、電球マークで視覚的に分かりやすく書き出しています。

また、重要なキーワードを赤字にしています。4ページの裏表紙は、建議の第3章「4 今後の実現に向けて」の文章をコンパクトにしたものを、まとめとして載せております。このリーフレットを読むことで、建議で提案されていることが分かるような趣旨で作られています。

以上、建議案と概要版について御提案いたします。

【岡部会長】

ありがとうございました。ただいま専門委員長から建議案の修正点及び概要版について、説明と提案がございましたが、御質問・御意見などはございますでしょうか。先ほどありましたとおり、今月25日に手交を予定しており、それに向けて、最終的な調整をする必要があります。気になった点などを仰っていただきたい一方で期日が迫っておりますので、大幅な変更は難しいというところもございます。そのため、軽微な修正などで対応できればと思います。

【近江委員】

概要版の4ページの表題「4 今後の実現に向けて」についてです。第3章ともつながってくると思いますが、きっとこの文言はいろいろな方面から考えられたと思います。ただ、1、2、3までは具体的に何をということが記載されていますが、この「4 今後の実現に向けて」では、はっきり書かれていないかと思います。中身を見ると、表題に「子どもたちを真ん中に」という文言が入ってくるとよいのかなと率直に思いました。

【明田川副会長（専門委員長）】

ありがとうございます。「4 今後の実現に向けて」の中身は、これまでの第3章の1、2、3で書かれてきたことを要約したような中身になっています。68ページの最後の段落の結びの言葉にある「子どもたちを真ん中に、いろいろな大人が連携・協力していく」というところが、やはり最も大事なかなということで、最後に記載しています。そのため、御指摘いただいたように「子どもたちを真ん中に」というところを強調していくというのは私もとても賛成で、4のタイトルは、そのまま「子どもたちを真ん中に」でも伝わりやすく、分かりやすいのかなと思いました。ありがとうございます。

【岡部会長】

この「子どもたちを真ん中に」の文言は、「4 今後の実現に向けて」の副題にするのはどうでしょうか。

【明田川副会長（専門委員長）】

副題にするか、そのまま主題とするか、どちらがいいでしょうか。

【岡部会長】

これは専門委員会での議論を踏まえているものですので、ほかの専門委員の皆様でもお考えがございましたら、何か御発言いただきたいと思います。先ほど明田川専門委員長からありましたとおり、これは要約の部分もあるということで、定義も含まれています。御本人からの御発言が非常に重要なところですが、副題にするのも一つの手かなと思います。何かお考え、御意見などがありましたらお願いいたします。

【上坂委員】

「～」などを用いて「子どもたちを真ん中に」などのサブタイトルを入れると、子どもたちへの愛情なども伝わりやすいかと思います。また、文章が固くなっているので、少し柔らかい部分もあっていいかなと思います。あと全部がダイヤのマークなので、ダイヤではない記号にしたら、少し目を惹くかなと思います。

【岡部会長】

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。こういう視覚的な部分も非常に重要ですので、そういったものも含めまして、内容などで気になる部分も含めてお願いします。

【永井委員】

「子どもたちを真ん中に」をサブタイトルにするのは、すごくいいかなと思います。最初に出てくる文章が一番頭に残るので、ここを本当に強調したいなら、4ページの最初に「子どもたちを真ん中に」という考え方を書いてもいいのかなという気もしました。

【明田川副会長（専門委員長）】

そうですね。ありがとうございます。

【岡部会長】

強調点をセクションの始まりにもってくるか、終わりにもってくるかですね。好みもあるかもしれませんが、なお、概要版について軽微な修正ですが、2ページに「本リーフレット」とありますが、呼び方は「概要版」と「リーフレット」のどちらかに統一したほうがよいかなと思います。

【明田川副会長（専門委員長）】

呼び方については、少し悩んでいました。何て呼ぶべきでしょうか。

【事務局（藤田キャリア教育指導係長）】

概要版1ページの上段に「概要版」といった記載がありますので、「概要版」であれば間違いはないかと思います。

【岡部会長】

他に何かお気付きの点などありましたら、御発言をお願いいたします。修正点についても御意見があればお願いいたします。12ページの第2章になりますが、「2 調査の趣旨と観点」の2段落目、「マッチング」から「捉え方には検討の余地がありますが」の文言については不要と思われる

ので削除してはいかがでしょうか。

【明田川副会長（専門委員長）】

そうですね。削除します。

【岡部会長】

その他、気になる点等はございますか。

【和田委員】

多数の議論を重ねてきたものなので、私からは特にありませんが、この建議が今後どうなっていくのか、どのように活用されていくのかが気になっているところです。

【諸橋委員】

これまで多くの意見交換を行ってきましたので、私からはこれ以上はありません。後ほど、アンダーラインの考え方や引く箇所などについて、事務局にはお知らせしたいと思っています。

【上坂委員】

SNS などの発信の話をしていた中で概要版を見て思いましたが、2 ページの発信方法についてです。確かに最近 note は充実してきていますけれども、これは誰向けに発信しようという意図なのでしょう。note は文章量が多いので、小中学生にはあまりマッチしないのではないかと思いますかどうか。

【明田川副会長（専門委員長）】

リアルタイムに様々な情報を伝えたいときに、道教委はTikTok が使えず、使えるツールがnote であるということです。

【上坂委員】

X は使えないんですか。

【事務局（石田課長補佐）】

学校はあまり使っていないですね。

【明田川専門委員長】

中学生が見る機会が多いのは Instagram だと思います。note をどうしても使わなければいけないという意味合いではなく、新しいツールがどんどん出てきていますので、使えるツールを利用しながらという意味合いで活用しているというのが現状です。

【上坂委員】

「SNS（Instagram など）」という表現のほうがよいのではないのでしょうか。

【明田川副会長（専門委員長）】

その方がいいですね。ありがとうございます。

【大槻委員】

高校の先生が発信しているのか生徒が発信しているのか分らないですが、最近、有料版の note

が使えるようになって、高校が頻繁に発信しているのは見受けられます。中学生が見るかどうかは分からないけれども、とにかく更新は頻繁にあるなという印象がすごくあります。関わりのある高校しか見ていないですが、note について書く・書かないということについては、どちらでもよいにせよ、note は非常に充実した情報が載っていると私は理解しています。

【明田川副会長（専門委員長）】

これまで、学校から情報が十分に発信されていることが重要であり、ツールとリアルタイムでの発信の充実というところに焦点を当てて議論してきましたので、今の note の活用の話を聞きますと残してもいいのかもしれないとも思いました。

【岡部会長】

「SNS (Instagram)」のような記載に変えるというのはいかがでしょうか。

【永井委員】

受信側のことを考えると、中学生は note をあまり見ていません。発信側からすると充実しているけど、受信側のことを考えると note はやはり気になるなと思いました。

【明田川副会長（専門委員長）】

分かりました。本文のほうは「note」と「Instagram」の順番を入れ替えて、「Instagram」を先にもってくる。概要版のほうは、「SNS (Instagram) や note」などにした方がシンプルに見えますね。

【岡部会長】

ほか、いかがでございましょうか。では、感想を含めて御発言いただきたいと思います。高橋委員、いかがでしょうか。特に、中学校との関係の部分でお願いします。

【高橋委員】

膨大なアンケート調査について、ここまで回数を重ねてまとめていただき、中学校の関連箇所が中心ではありますが読ませていただき、非常に勉強になり、いろいろ考えさせられる点がございました。本当にありがとうございます。

建議の中学校の部分について、受信側、発信側のいずれも、「高校が開催する体験入学や見学会に有効性を見出している」や、主要な相談相手が「保護者、中学校の先生」ということのほか、職業学科への進学を選ぶ中学生と選ばない中学生が何をやっているのかといった調査、約半数の中学生が職業学科に関心をもっていることなどについて、これからいろいろな形で周知されていくとは思います。

例えば、自分の立場で言いますと、北海道中学校長会、そして私は北海道の技術・家庭科の研究会会長を仰せつかっております。技術・家庭科は、教科として産業教育と距離感が近いところもありますので、周知されたときにいかにしっかりと周知されていくかが、自分の役割として大事だと思っています。せっかくこれだけのものがあるのに、それが知られていないということは、今までの取組の成果が半減してしまうのかなと感じております。

あとは、周知がしっかりとされていったときに、それが本当の意味で生かされていく、もちろん中学生の中で職業学科を希望する生徒さんが増えることが目的の一つでもあるかと思いますが、最初に出ていました「子どもたちを真ん中に」の考えですね。これが建議の柱にあると思いますので、迷っている生徒さんの中には、ひょっとしたらこの取組を通してよりよい将来の自分に向けてよい選択肢ができるなど、本筋につながっていけばと思っております。以上です。

【岡部委員】

ありがとうございます。大変貴重な御発言をいただきました。

【明田川副会長（専門委員長）】

貴重な御意見ありがとうございました。「しっかり周知することが大切」とおっしゃってくださいましたけれども、今回は、効果的な周知をねらいとして概要版を作成しました。これまで、このような概要版は作ったことがないですね。

【事務局（藤田キャリア教育指導係長）】

文字だけの概要版は作っていましたが、こういう新しいタイプの概要版は初めてです。

【明田川副会長（専門委員長）】

本当にしっかり周知をしていただきたい。多くの人にこの調査結果を参考にしていただきたいということで、概要版も作っております。私も周知は本当に大切だなと思っています。高橋委員には、特に中学校の校長会等の研究会等で周知いただけますと幸いです。

また、周知されてから本当の意味で生かされていくというところは私も望んでいるところです。中学生が自分の進路を考えていくときに何か一つ道標となるようなものになると幸いです。ありがとうございます。

【岡部委員】

ありがとうございました。この建議の中身に対する御意見や感想もありますが、重要な点である周知に関する御意見や考え等がございましたら是非御発言いただけるとありがたいと思います。

おそらくこの部分がこれから最も重要かつ気になる点になるかと思いますが、お願いいたします。それでは今、中学校の立場から御発言がありましたが、続きまして百瀬委員から何か御発言いただけますか。

【百瀬委員】

時間をかけて検討して練られており非常に読みやすい内容ですし、文言について修正等はありません。今ありましたように、いかに周知によって浸透し、その次にアクションが起きるかどうかのポイントで、そこで持続的な展開がされることが重要だと思いました。

その中でも、調査の中で、連携したことがない企業でも、何割かは「連携に関心がある」と回答しています。企業はどちらかというと待ちの姿勢なので、学校側からのアプローチがあったら嬉しいのかなと思います。きっかけさえあれば企業は動けることがあり、関心がある業界、建設業が中心にはなっていますが、いろいろな業界が巡り巡って関係することもあると思うので、今後は業界を絞らずに広く周知あるいは啓蒙していくべきかと思いますので、連携のない企業の取り込みをいかに進めていくかというのが1点です。

また、技術的なことは日進月歩であり、学校の先生に全てを学んでというのは無理なので、これは是非、産業実務家教員の活用をさらに進めるべきだと思いますし、「産業実務家教員リスト」の活用というのも必須でございます。もう一步言えば、リストを作って終わりではなくて、いかに実績があったかの実績把握も必要ではないかと思います。企業ではPDCAについてよく言われますが、そうした実績を把握して、また次のアクションにつなげることが、持続可能な活動につながると思います。

最後に、いずれにしてもこうした活動には時間とお金が必要ですので、道教委の御尽力で、予算措置あるいは人員の配置などを進めていくことが、今後の課題になると思っております。以上で

す。

【岡部委員】

ありがとうございます。百瀬委員から貴重な御発言をいただきました。これにつきまして、明田川専門委員長いかがでしょうか。

【明田川副会長（専門委員長）】

ありがとうございます。浸透してからのアクションが大事ということは本当にそのとおりだと思います。先日、室蘭工業高校で「ONE-TEAM フォーラム」といったイベントが開催され、私も参加してきました。参考資料の36ページにありますが、高校と産業界は、きっかけがあるとつながれるということで、「ONE-TEAM フォーラム」では企業の方と教員の方などが同じグループになってディスカッションする機会があり、道教委がこうした機会を設けていくことは、持続可能な活動においてとても大事なことだと思いました。

実際に同席した企業の方と教員の方がお話しされて、「学校はもっと企業と連携したい」、「企業も学校と連携したい」とお互いに連携したいと言っているわけですが、どちらも微妙に待ちの姿勢だったりすることも分かってきます。そういう場所で実際に顔を合わせてお互いにコミュニケーションを取ることで、一步を踏み出して進んでみようかなという気持ちになりやすいのではと思いましたので、こういう機会を本当に活用していくことは大事だなと思います。

それから、「産業実務家教員リスト」ですね。実務家教員の活用実績を広く発信していく、実績を把握するということも大事ですから、「ONE-TEAM フォーラム」などのイベントを活用して、活用実績の紹介や発信に努めていけるとよいと思いました。

そして、環境整備ですね。本当に予算措置と人員配置抜きには、なかなか現実的に実現可能になっていきませんので、上手く条件や環境を整えながらサイクルを回していければいいなと思います。その意味でもこの「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の取組を道教委としては継続していただければと思います。

【岡部委員】

ありがとうございます。アクションに結び付けなければというのは非常に重要なところです。リストだけ作って終わりではなく、是非これからの活用に結び付くような動きができればというのは大変貴重な御発言であったかと思われまます。それでは続きまして、廣瀬委員、御意見いただけますでしょうか。

【廣瀬委員】

まずは調査から分析、そして分析を基にした取組まで御検討いただきました。ありがとうございます。この分析というのはすごく難しいと思いましたが、しっかりとした土台で分析されていますので、こうした取組の在り方が検討されたのだと感じております。

私のほうから2点ですが、まず1点、冒頭にあった概要版ですが、建議の方ではそれほど違和感はありませんでしたが、概要版となると4ページの「4 今後の実現に向けて」というところに少し違和感があります。「今後の取組に向けて」の中に、例えば専門高校の魅力発信や教育確保などの部分も含まれており、重複しているといった感じを受けてしまうので、そこを修正した方がよいのではないかと感じました。

それからもう1点。これは高橋委員もいらっしゃるので、少し失礼になるかもしれませんが、高校に関する情報源について、中学校の先生が保護者の次に高いということで、中学校の先生に対する専門高校の魅力発信というのが非常に大切だということを改めて感じた次第です。ですから今後の周知の方法として、いかに中学校の先生方に周知していくかということがとても大切で、その方

法を工夫していかなければいけないかなと感じます。以上です。

【岡部会長】

ありがとうございます。特に概要版については、かなり喫緊のことになりますけれども、いかがでしょうか。

【明田川副会長（専門委員長）】

そうですね。概要版の考え方として、4ページには、2、3ページに書いてあることの繰り返しのようなことが書かれてはいます。ですから、まさに「また同じことが書かれている」という捉え方もありますし、裏だけを見ても概要が分かるという考え方もあり、悩ましいのですがいかがでしょうか。これに関しても、皆様の御意見を伺えればと思っています。

【岡部会長】

いかがでしょうか。いろいろな考え方がありますが、概要版は要約でもあります。そうした時に先ほどの「子どもたちを真ん中に」というところを最初にもってきて、そこだけ、フォント・色・マークも変えて書くなど、「4 今後の実現に向けて」の強調具合だけでずいぶん見方は変わってくるのかなという気はしますが、いかがでしょうか。

【廣瀬委員】

「4 今後の実現に向けて」については、それまでの1～3の項目と並列になっているため、違和感があるのだと思います。

【上坂委員】

「4 今後の実現に向けて」は数字を付けず、まとめとして、子どもたちを中心に考えているということを伝えるようにするとよいのではないのでしょうか。

【岡部会長】

「今後の実現に向けて」を特別な扱いにするというのもよいですね。

【上坂委員】

子どもたちを中心に見せるとおっしゃったように、まとめた方がいいと思います。少し字が小さいので、ここで見やすくする工夫があれば読んでみようとなるのではないのでしょうか。

【明田川副会長（専門委員長）】

ありがとうございます。並列にせずにレイアウトと順番を入れ替えて、「まとめ」と書いて、これがまとめなんだと分かるような体裁で作成します。

【事務局（藤田キャリア教育指導係長）】

建議本文の「4 今後の実現に向けて」については、修文するイメージでしょうか。

【上坂委員】

建議は4のままでいいのではないのでしょうか。

【諸橋委員】

概要版4ページの「4 今後の実現に向けて」というのは、一つの項目として、建議の第2章と

第3章を合わせた感じですね。建議の第3章で「今後の取組の在り方」とありますが、概要版2ページのタイトルは変えてもいいかなと思います。「調査結果から」などにすると「今後の実現に向けて」とつながるかと考えます。

【永井委員】

私も「今後の実現に向けて」が4というのに違和感がありました。まとめというイメージではなく、いわゆる「今後に向けて」というように考えていて、この取組を提案して、次のアクションにつなげるためには、こういうことを考えていかななくてはならないとか、こういう対応が必要になるとか、アクションに向けた内容になるので、まとめとも少し違うと思っています。本当は1～3に続く4ではないのかなとは思いますが。

まとめにするなら「今後の実現に向けて」というタイトルではないと思いますし、まとめであれば、概要版はもうまとめているので、繰り返す必要も無いと思います。そのスタンスをはっきりさせて、もう1回見直して細かいところを確認した方がいいのかなと思いました。

【明田川副会長（専門委員長）】

ありがとうございます。

【岡部会長】

情報源である中学校の先生方へのアプローチも重要という御発言もいただきました。中学校の先生方に対するアプローチについては、「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の取組等について第3章に言及されています。また、「専門高校魅力発見ミーティング」に関しては、61 ページで言及されていますが、委員の皆様には周知の点について、もう少し御発言いただけたといいかなと感じています。続きまして、小塚委員からお願いします。

【小塚委員】

皆様、分析について御苦勞様でございました。参考資料の「セミナーレポート」の中にも書いていただきましたけれども、私どもは個別の業種に対する若手人材への教育の機会や、産業界との接点、半導体のセミナーなどで道教委の皆さんと連携しておりますが、半導体だけではなく、様々な分野において、こうした人材育成の取組をしております。

今回まとめられている建議の中でも、産業界との連携ということを書いていたいただきましたが、よろしければ、今後も関係の皆様と連携させていただき、上手く活用していただければと思っております。建議にあるような取組を進めていただいて、将来的には産業界への人材供給という観点で好転していくような状態になっていければと考えておりますので、引き続き協力させていただければと思っております。ありがとうございました。

【岡部会長】

ありがとうございます。大変力強い御発言をいただき、ありがとうございます。

【明田川副会長（専門委員長）】

若手の育成というところで「一緒に人を育てていく」ということについては、概要版と建議のどちらにも書いております。審議を通じて、学校と産業界が連携しながら「次の若い世代と一緒に育てていく」といった連携意識の醸成が本当に欠かせないということを実感してきましたので、是非、引き続き協力いただきますと幸いです。よろしく願いいたします。

【岡部会長】

この点は、この審議会もそうですし、「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」という文部科学省の事業の中でも「産学官」という言い方をしていますが、産業界と学校、行政全員で子どもたちを育てていくという体制を作っていくことが、この建議が最も生きる方法だと思います。大変貴重な御発言をいただきました。ありがとうございます。大槻委員から、お願いいたします。

【大槻委員】

11 回にわたる専門委員会お疲れ様でした。以前の審議会で、中学校の先生と進路について話をした際、「産業教育のことを知っている先生があまりいない」という話をさせていただきましたが、この建議等をきっかけとして、先生方にもっと産業教育のことを知りたいと思っています。保護者たちもあまり知らなくて、「産業教育の会議に行ってくる」と話していたときに、「産業教育って何?」と言われたりします。やはり先生方だけではなくて、保護者も触れることが大事だと感じたところです。

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」のイベントについては、保護者は参加できるのでしょうか。

【事務局（藤田キャリア教育指導係長）】

イベントによっては、「産業教育に関心のある方」などと参加要件に入れているイベントもございますので、参加することは可能です。

【大槻委員】

是非、保護者にも参加していただきたいと本当に思います。事前に送付された資料を見せていただいて、難しいことが書いてあると思って見ていたのですが、最後に「子どもたちを真ん中に」という文言を見た時に、とてもいい言葉だなと思いましたので、是非、副題にしていきたいと思いますと思いました。

【明田川副会長（専門委員長）】

ありがとうございます。本当に、「産業教育」といった言葉や専門高校の実態、実習の内容については知らない方が多いです。本学の学生に実習の様子の写真を見せると、「そんなことやっているんだ!」みたいな顔をしていますので、もっと専門高校の魅力が見える化していきたいと思うところです。それから、保護者の方を知ってほしいというのは本当にそのとおりです。道教委では、中学生保護者を対象にしたオンラインのミーティングを開催したりしていますよね

【事務局（藤田キャリア教育指導係長）】

参考資料の 38～39 ページにあります。今年度初めて「専門高校魅力発見ミーティング」というオンラインのイベントを開催しました。道内にある 7 つの職業学科について、道教委の産学連携コーディネーターと、例えば農業高校の在校生と卒業生の 3 人でトークセッションを行い、Zoom で配信するという形で、全道の市町村教育委員会を通じて、中学校の先生方や保護者の方へ周知しました。

平日の日中の開催だったこともあり、参加者は多くありませんでしたが、ミーティング開催後も多くの方に見ただけのように、この度、高校教育課のホームページに全ての動画を掲載しました。こちらの資料が周知用のチラシです。チラシに QR コードを掲載し、7 つの学科別にトークセッションの動画が見られることを全道の中学校に周知しました。今後はいろいろなイベントを通して周知していきたいと思っています。

【岡部会長】

ありがとうございます。この点はすごく難しい問題で、こういうイベントや活動が開催されているという情報が、中学校や保護者の方など、どこまで届いているのか。それが参加のしやすい形で届いているのかという点が、一番難しい点です。どんなにいいイベントを開催しても、知られていなかったりしたら、空回りになってしまいますので大変重要な点だと思います。QR コードがあると非常に興味をもちやすいですね。

【永井委員】

「なんだろう？」と興味をもちやすいと思います。ちなみに私の息子は中学生ですが、この情報は保護者まで届いていなかったです。

【岡部会長】

情報が保護者にどうやったら届くのかというのは、いろいろと方法を考えて、つながなければならないのかもしれませんが、すごく難しいところではあるかなと思いますし、地域によってもさらにつながりにくいところもあると思います。

【明田川副会長（専門委員長）】

こうした課題もある中で、大槻委員がおっしゃってくださった「『子どもたちを真ん中に』という言葉が非常によい言葉」という御意見は大変嬉しいです。建議となると、いわゆる固い文章が多くなりますが、保護者の方や多くの方が手に取ったり文字を目にした際に「そうだよな。子どもだよな。」というふうに、直感的に胸にストンと落ちるような言葉というのは、やはり大事だと思います。周知をしていく時もそういう点は大事ですね。ありがとうございます。

【岡部会長】

ありがとうございます。非常に貴重な御意見をいただきました。ほかに思いついたことなどございましたら御発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【明田川副会長（専門委員長）】

「子どもたちを真ん中に」の言葉がこんなにもピックアップされて素敵な形になり、非常に伝わりやすく、この建議を一言で表す時のキーワードになるのかなという気付きがありました。また、この言葉を副題にする流れにもなり、本当によかったなと思います。皆さんが子どもたちのために、本当に親身に議論してくださったおかげだと思っています。

会議としては最後になりますので、ここまで多様な立場の皆さんが、次の世代を担う子どもたちのために一生懸命考えたり感じたり、信じていることをもち寄りながら議論できる場づくりになったこと、本当に感謝しております。そして、調査結果を踏まえた審議を通じて、120 数ページの建議という形になったということで、まだ手交前ですが大変感慨深いです。改めまして、皆さんに本当に感謝いたします。ありがとうございました。

【岡部会長】

今後は、この概要版を若干修正することになりますが、細かな点につきましては、事務局と調整していきたいと思います。大筋で合意をいただけたということで確認させていただきます。ありがとうございました。

ほかに何か御意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。特にないようですので、第4回審議会の議事については終了いたします。進行を事務局にお返しいたします。

【事務局（藤田キャリア教育指導係長）】

ありがとうございました。それでは閉会に当たりまして、岡部会長から御挨拶をいただきます。

【岡部会長】

閉会に当たりまして、御挨拶申し上げます。

本日は第4回、そして最後の審議会にふさわしく、多方面にわたって非常に示唆に富んだ御意見をいただき御審議いただきましたこと、誠にありがとうございました。委員の皆様のこれまでの御尽力によりまして、建議「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」をまとめることができました。建議につきましては、私が一旦お預かりしまして、事務局とも相談しながら整理し、今月25日に北海道教育委員会に建議させていただきたいと考えております。

これまでの議論にもありまして、本建議では、専門高校と中学校、企業、大学等との関係性や連携状況を詳細に分析検討したことで、学校が直面している課題とその対応策のさらなる発展の方向性を提示できたと考えております。本建議を踏まえ専門高校と産業界、大学等がつながりを深め、本道の産業教育が一層充実・発展していくことを期待しております。

結びになりますが、委員の皆様には約2年間にわたり、審議会委員の大役をお務めいただき、改めてこれまでのお力添えに心から感謝申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

【事務局（藤田キャリア教育指導係長）】

ありがとうございました。続いて北海道教育庁学校教育局高校教育課課長補佐、石田暁から御挨拶申し上げます。

【事務局（石田課長補佐）】

閉会に当たり、御挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては、令和5年12月1日から本年11月30日までの任期中、約2年にわたり、精力的に御審議いただきましたことに、改めて御礼申し上げます。また、本日も建議の最終審議ということで、熱心に議論いただきましたことに深く感謝申し上げます。道教委といたしましては、本建議を各種施策に反映させるよう努めてまいりますほか、「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」などを通じて、専門高校や中学校の教員に加え、産業界等の関係者へ広く周知していくこととしております。

結びとなりますが、岡部会長、明田川副会長はじめ、委員の皆様方におかれましては、今後とも、専門高校における産業教育の充実に、それぞれのお立場で御支援、御協力をいただきたくお願い申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきたいと思っております。皆様長い期間にわたり、本当にありがとうございました。

【事務局（藤田キャリア教育指導係長）】

ここで事務局から事務連絡を申し上げます。

1点目は建議についてです。完成した建議は概要版と併せて、後日委員の皆様あて電子メールで送付させていただきます。

2点目は本日の議事録についてです。12月中旬までには事務局で作成した議事録案をメールで委員の皆様にお送りしたいと考えております。委員の皆様には御多用のところ恐縮ですが、修正等がありましたら御意見をいただき、皆様の確認を経て、第4回審議会の議事録として確定し、道教委のWebページに掲載いたします。

以上をもちまして、第29期北海道産業教育審議会第4回審議会を終了いたします。これまで本当にありがとうございました。